



戦後、直弼公の復権運動が舟橋聖一氏の目にとまり、その生涯を題材

舟橋聖一氏と市立図書館



また、旧彦根藩士の家々から従来の貴重書物が図書館に寄贈され、現在の図書館特別所蔵コレクションが形成されました。

市立図書館開設の背景には、郷土の先人・井伊直弼公に対する評価や彼の人物像、業績を見直すべきという地元の人々の盛り上がりがありました。この声が、文部大臣からの図書館の設置許可につながっていきまし

図書館ができるまで



市立図書館は、県内では公立図書館としての設置は最も早く、先月25日で創設100周年を迎えました。

今回は、図書館の創設から現在までの100年間のあゆみを、懐かしい写真とともに紹介します。

問い合わせ先 市立図書館 ☎ 22-0649、FAX26-0300

図書館の移り変わり

大正時代、彦根町でも図書館の設立が検討されるようになり、大正5年4月25日、当時の文部大臣(現文部科学大臣)から設置許可がおりて彦根町大字金龜に彦根公会堂の一部として「彦根町立彦根図書館」が開館しました。

昭和2年4月に、公会堂から待望の独立館として四番町(現・本町一丁目)に移転しました。新館は、木造モルタル塗りの2階建てで、1階には事務室、新聞室、児童室、2階に



〈左上写真〉昭和54年に現在の図書館が開館 〈右上写真〉4代目たちばな号の前で写真に写る子どもたち(昭和61年) 〈下写真〉開館当時の貸し出しの様子

は大閲覧室、特別室、婦人室があり、書庫は鉄筋3階建てでした。その後、昭和12年2月の市制施行により、「彦根市立図書館」に改称しました。2代目の建物の老朽化により、昭和54年11月に現在の場所(尾末町)に移転しました。当時、「ざわめきのある図書館」を館内標語として貸出しに力を入れ、市民から親しまれる図書館を目指しました。

今なお残る貴重な蔵書

市立図書館には、郷土に関する図書・古文書・古絵図など、多くの資料が収集・保存されています。

戦時中は、図書館職員が蔵書を4か所に疎開させ、戦火から守り抜きました。こうして、今なお貴重な資料が図書館に残されています。こうした資料は、図書館創設100周年にあわせて、今後展示を行う予定です。



舟橋聖一氏

にした小説「花の生涯」を執筆しました。その際、何度も彦根市に調査に来られていました。そして、後に映画や演劇になり、第1回の大河ドラマとして放映されたことで、直弼公と彦根市の名が全国に知られる契機となりました。こうした貢献から、舟橋聖一氏は彦根市名誉市民第1号になりました。また、没後には聖一氏の所蔵していた遺品が彦根市に寄贈され、「舟橋聖一記念文庫」が開設されました。



彦根御山絵図(ひこねおんやまえず)の一部分

図書館100年の歩み

大正3年7月 彦根町議会議が「図書館設置」を議決
大正5年4月 「彦根町立彦根図書館」(金龜町)開館



昭和12年2月 市制施行により「彦根市立図書館」に改称

昭和20年5月 戦時中、4か所に蔵書の疎開を行う

昭和40年8月 動く図書館「たちばな号」による巡回貸出開始



昭和51年7月 開国記念館内に「舟橋聖一記念文庫」開設

昭和54年11月 現在地(尾末町)に新築移転

昭和61年7月 市制施行50周年を記念し、「舟橋聖一顕彰文学奨励賞」を制定

平成2年3月 コンピュータシステム稼働



平成16年10月 「舟橋聖一生涯100年記念特別展」開催

平成17年4月 インターネット蔵書検索開始

平成27年8月 動く図書館「たちばな号」巡回貸出50周年



平成28年4月 彦根市立図書館創設100周年